

観光立国の実現は地方から

# 活路開く戦略を

出席者  
(順不同)

JTB 社長 田川 博己氏  
 近畿観光 社長 吉川 勝久氏  
 日本旅行 社長 丸尾 和明氏  
 トップツアー社長 石川 邦大氏  
 司会 一本社社長・江口恒明

# 国内旅行需要喚起へどう動く

## 正念場に業界挙げて取り組み強化へ

厳しい経営環境の中で新年が明け、今年はいよいよ正念場を迎える。観光業界も例外ではなく、方向性が見いだせないまま、どう転換すべきかを模索している。09年の漢字は「新」というが、今年はそのばかりではなく、

「忍」と「心」にある。旅行業大手は、イベントの多い年をどう売るか、それぞれのトップは何を考へて、どんな経営戦略で国内旅行の喚起に動くのか、を聞いた。題して「激変の年。『今』を直視し活路開く戦略を」。【東京・紀尾井町「福田家」で】

## 09年の業績を振り返る



石川氏

「09年は1年間にいろいろなことが吹き出したといえよう。逆に言えば、従来やっていたビジネススキームが壊れはじめたということだ。そうしたことにはっきり見えた1年だった。このことを真摯に受け止める必要があるし、マーケットの動きも含めては、しっかりと見てきた。パラル崩壊後20年経つが、もう一度考え直す必要に迫られた年だった。」

09年は厳しい年だったが、本道の21世紀の新しい節目の年になった。踊り場に入り出しているが、これをどう抜け出して行くかが10年の課題になると受け止める。

海外旅行は円高のメリットがもたらされ、安近航の傾向もより低調だった。旅行ニーズはそこそこあったが、ロング方面が少なく収入は上がらなかった。

また高速道路の土日料金割引で旅行者の行動範囲は広がったものの、日帰り旅行が増え、高速道路の渋滞で車の中で泊まる人も増えて旅館・ホテルにはあまり効果なかった。旅行業にとっても結果としてマイナス要素となった。

9月のシルバーウィークは好調であったが、09年は内外のイベントも少なく、需要喚起ができなかった。

JATAで国内旅行委員長を務めているが、09年から国内旅行活性化策として「もう一泊もう一度」のキャンペーンを行い、需要を底上げしようとしている。10年は3カ年計画の2年目なので幅広く展開していきたい。

## 従来スキーム壊れる 計画の見直しが必要



吉川氏

「このことがはつきり顕在化して、我々の目の前に見えるようになってきた。これもデフレスパイラルの影響かなという気もある。そんな年だった。我々もそのスピードについて行けなかったのかも知れない。」

観光庁ができて大いに期待したのとは対照的に、インバウンドの落ち込みが、09年は900万人を超えて1千万人の大台に乗るか、と思ったが逆に下がってしまった。

09年を初年度とする中期経営計画をスタートしていたが、厳しい環境の中で、様々な計画の見直しが必要になった。社会全体が「経費削減」の流れの中、当社の取り扱っている法人関係の団体旅行が伸びず、さらに円高、デフレによるインバウンドの不調が重なった。新型インフルエンザの流行では、上期、修学旅行の

「(司会)政治・経済・社会が混ざるとする中で新しい年が明けた。今年は年初から円高・株安、そしてデフレスパイラルに陥るといふ最悪の状況が続いている。旅行業は、構造化に伴う消費低迷も加わり大きく揺さぶられた。それぞれのトップは、昨年の厳しい1年を振り返ってどう受け止めたか、から座談会を進めたい。」

田川 昨年の座談会で09年は「観光立国元年」になると非常に期待した。出だしは必ずしも悪くなかった。しかしながら、新型インフルエンザの問題が大きなきっかけとなって、もともと懸念されていた問題が一気に出てしまった。当初インフルは一過性のものかと思いきや、SARSの時同様、一定期間終了すると思いたければ、あの時とは違って、景気低迷とインフルと

モンドセレクション  
**最高金賞**  
 りまさです。

サントリー

ザ・プレミアム・モルツ



MONDE SELECTION Brussels WORLD SELECTION OF QUALITY 2005年・2006年・2007年 中賞受賞



ザ・プレミアム  
モルツ生ビール



飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒はなによりも適量です。のんだあとはリサイクル。



http://suntory.jp/PREMIUM/  
サントリー酒類株式会社